

SWCCグループ

2017年度決算

ビジョン・中期経営計画説明会

2018年 5月16日

昭和電線ホールディングス株式会社

# 目 次



## 1.2017年度連結業績

## 2.ビジョンと

## 中期経営計画

### 将来見通しについての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

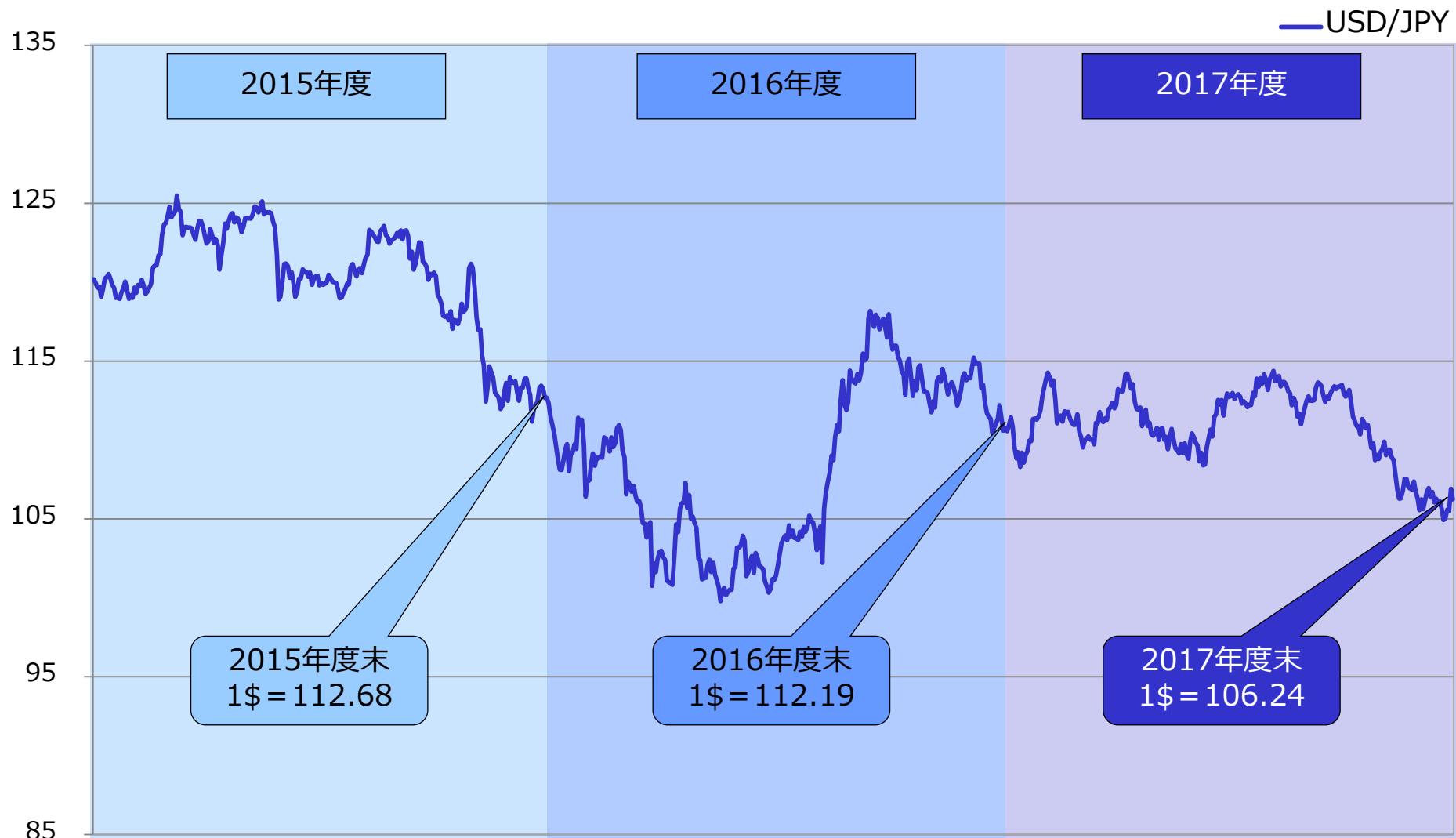
このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動等が含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

# 2017年度連結業績

# 為替レートの推移 (USD)



# 銅価格の推移

単位：千円/トン

◆ 銅価格 ■ LME

単位：USD/トン

2015年度

2016年度

2017年度

2015年度末  
建値610千円/トン

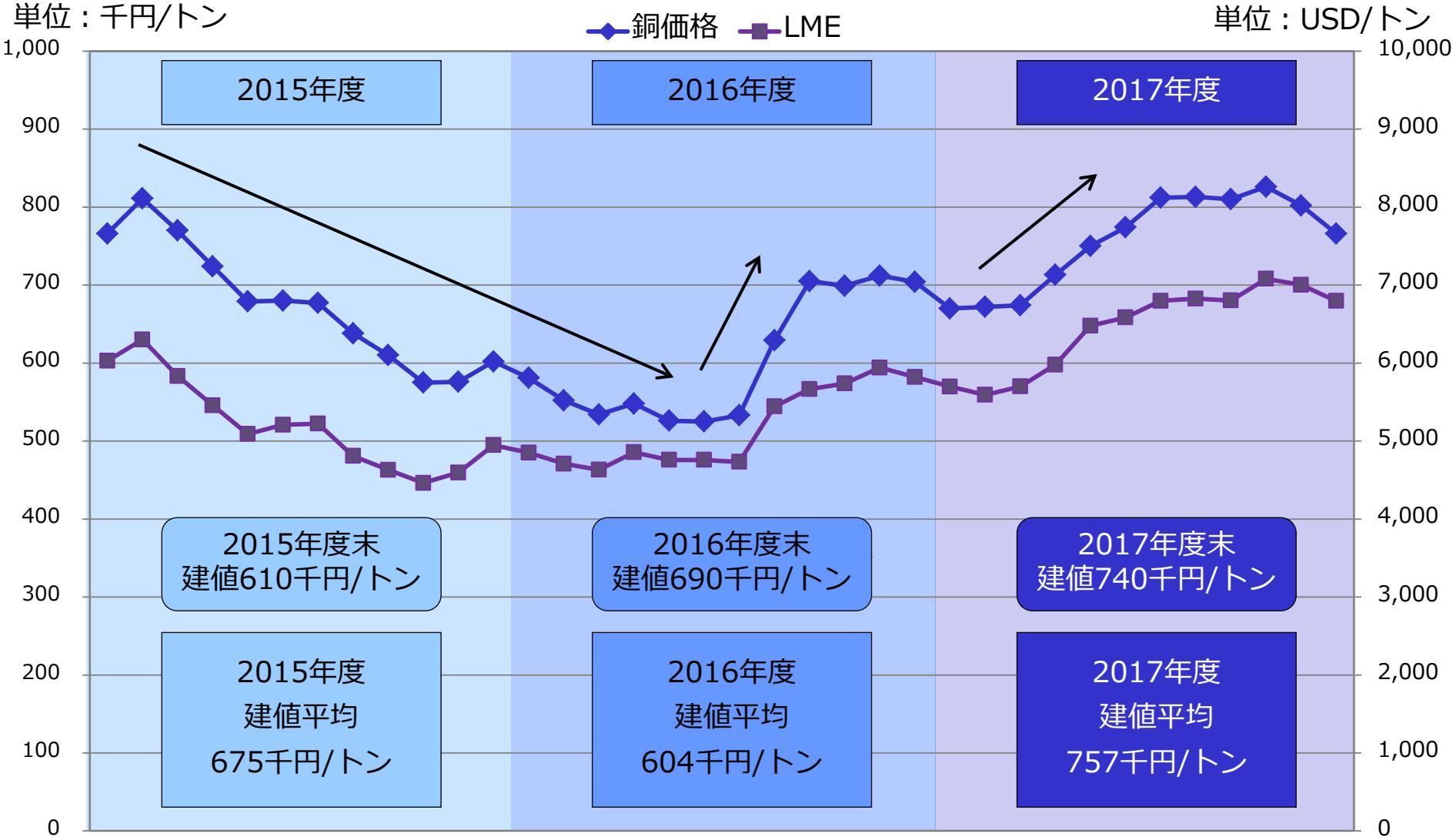
2015年度  
建値平均  
675千円/トン

2016年度末  
建値690千円/トン

2016年度  
建値平均  
604千円/トン

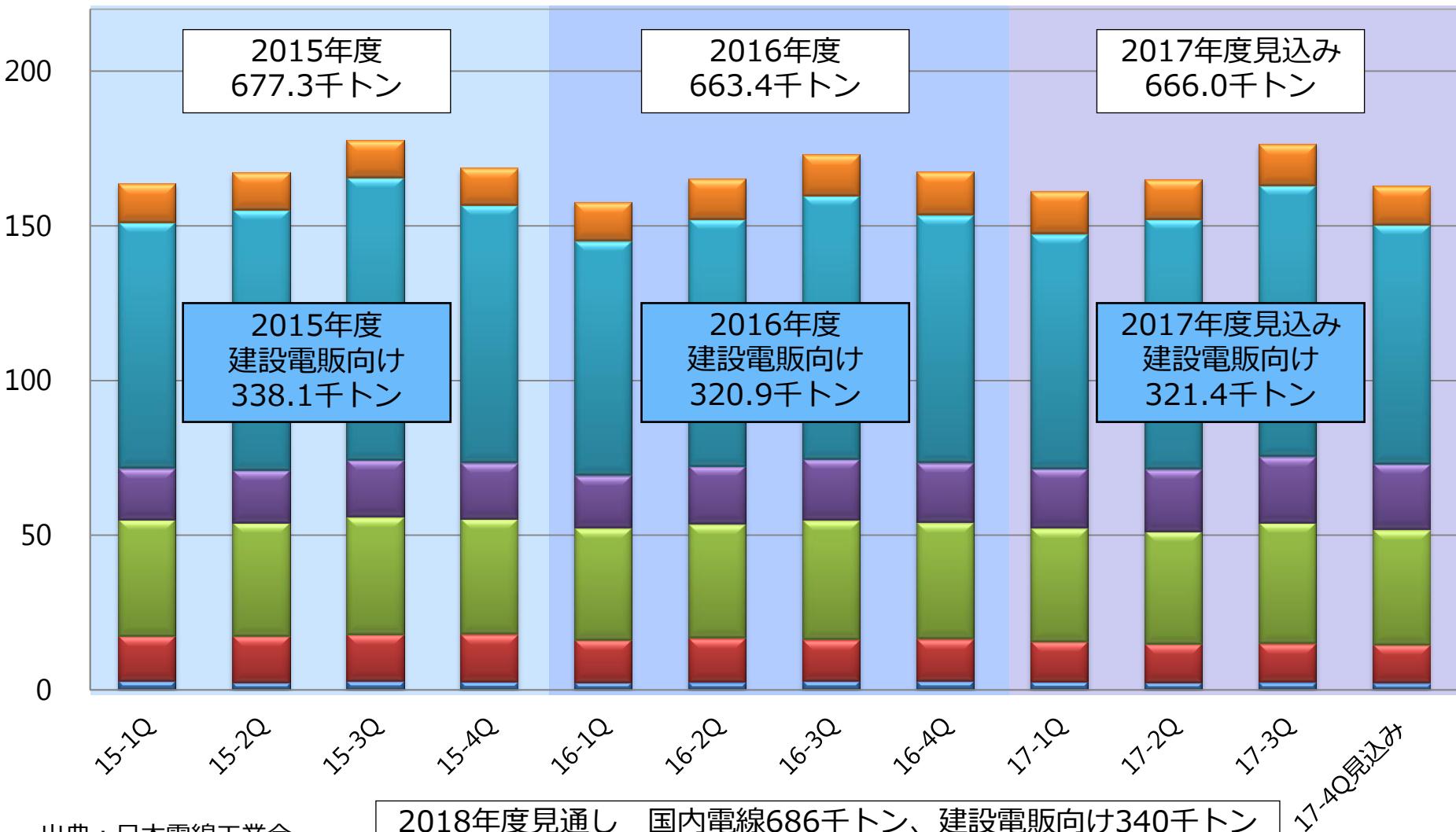
2017年度末  
建値740千円/トン

2017年度  
建値平均  
757千円/トン



# 国内電線の出荷銅量推移

■通信 ■電力 ■電気機械 ■自動車 ■建設・電販 ■その他内需 単位：千トン



出典：日本電線工業会

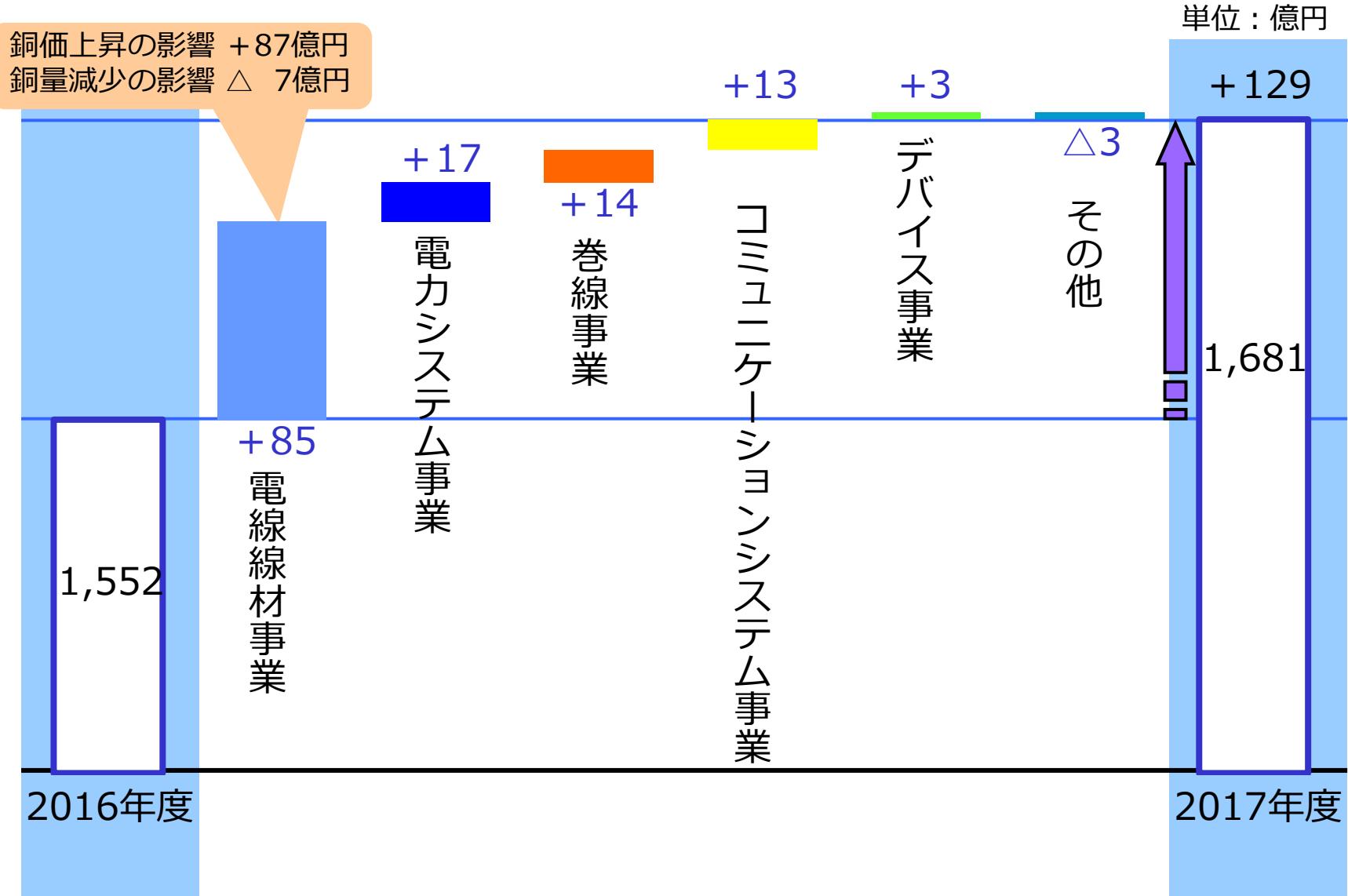
2018年度見通し 国内電線686千トン、建設電販向け340千トン

# 連結損益計算書（前年度比）

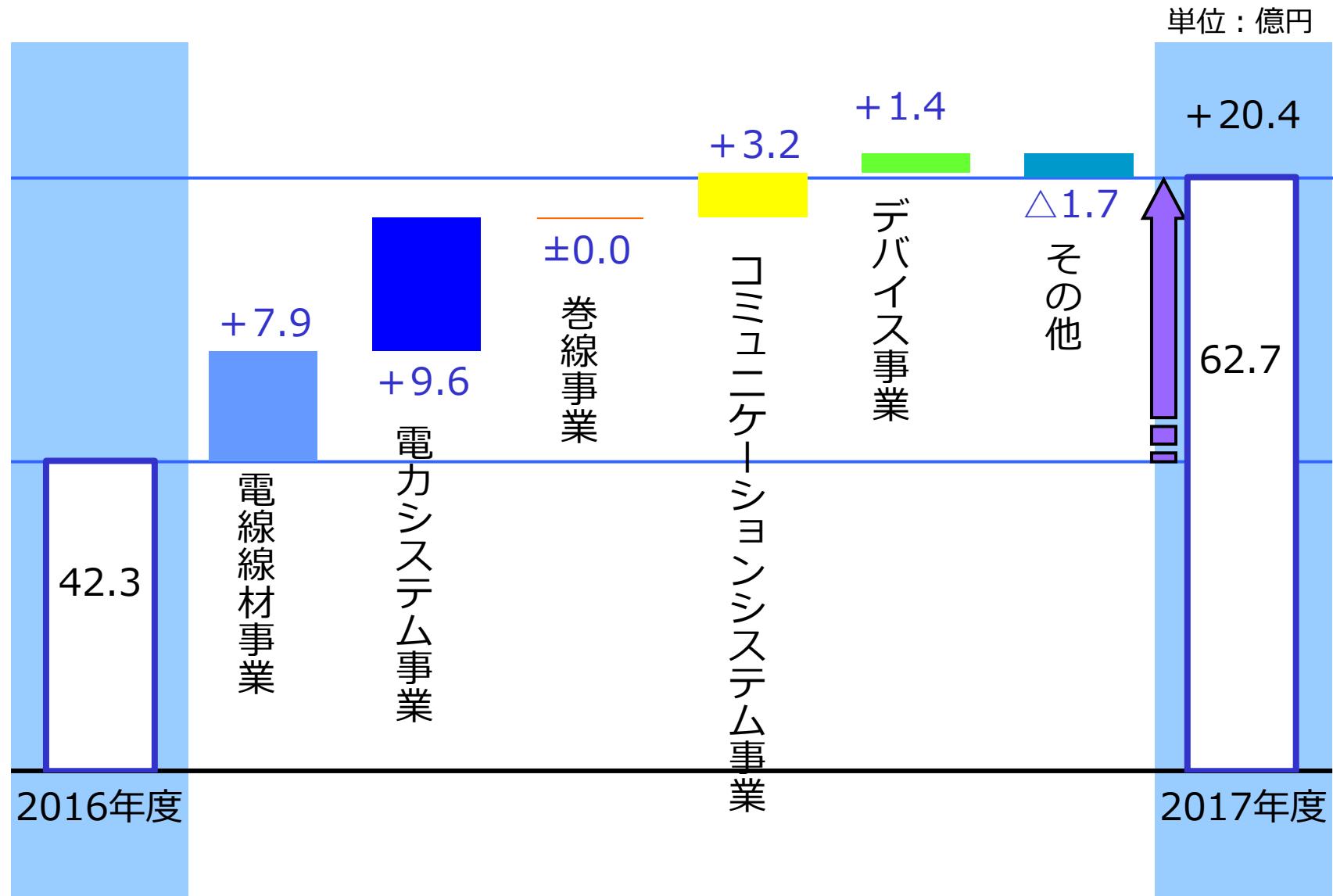
単位：億円

	①2016年度	②2017年度	②－① 増減
売上高	1,552	1,681	+129
営業利益	42.3	62.7	+20.4
経常利益	24.4	48.9	+24.5
親会社株主に 帰属する 当期純利益	19.7	37.3	+17.6
配当金	—	5円/株	+5円/株

# 売上高の増減（前年度比）



# 営業利益の増減（前年度比）



# セグメント別 売上高・営業利益

単位：億円

	①2016年度		②2017年度		② - ① 増減	
	売上高	営業 利益	売上高	営業 利益	売上高	営業 利益
電線線材	696	14.7	781	22.6	+85	+7.9
電力システム	246	7.9	263	17.5	+17	+9.6
巻線	198	2.4	212	2.4	+14	±0.0
コミュニケーション システム	195	10.6	208	13.8	+13	+3.2
デバイス	199	9.9	202	11.3	+3	+1.4
その他	18	△3.2	15	△4.9	△3	△1.7
合計	1,552	42.3	1,681	62.7	+129	+20.4

# 連結貸借対照表

単位：億円

	17/3/31	18/3/31	増減		17/3/31	18/3/31	増減
現金・預金	53	47	△6	支払手形・買掛金	209	219	+ 10
受取手形・売掛金	414	397	△17	短期借入金	353	344	△9
棚卸資産	191	219	+ 28	その他	128	136	+ 8
その他	40	60	+ 20	流動負債 計	690	699	+ 9
流動資産 計	698	723	+ 25	長期借入金	145	133	△12
有形固定資産	390	395	+ 5	その他	74	72	△2
無形固定資産	16	15	△1	固定負債 計	219	205	△14
投資その他の資産	91	105	+ 14	負債 合計	909	904	△5
固定資産 計	497	515	+ 18	資本金	242	242	0
有利子負債 514⇒490億円 △24億円				資本剰余金	55	55	0
資産 合計	1,195	1,238	+ 43	利益剰余金	△72	△35	+ 37
				その他	61	72	+ 11
				純資産 合計	286	334	+ 48
				負債・純資産 合計	1,195	1,238	+ 43

# 投資実績（設備・海外投資）

2016年度 実績	投資額	国内・海外 29億円	新規 3億円	合計 32億円
	償却費	29億円		

2017年度 予想	投資額	国内・海外 31億円	新規 4億円	合計 35億円
	償却費	31億円		

2017年度 実績	投資額	国内・海外 30億円	新規 4億円	合計 34億円
	償却費	29億円		

## 《 2017年度の主な投資実績 》

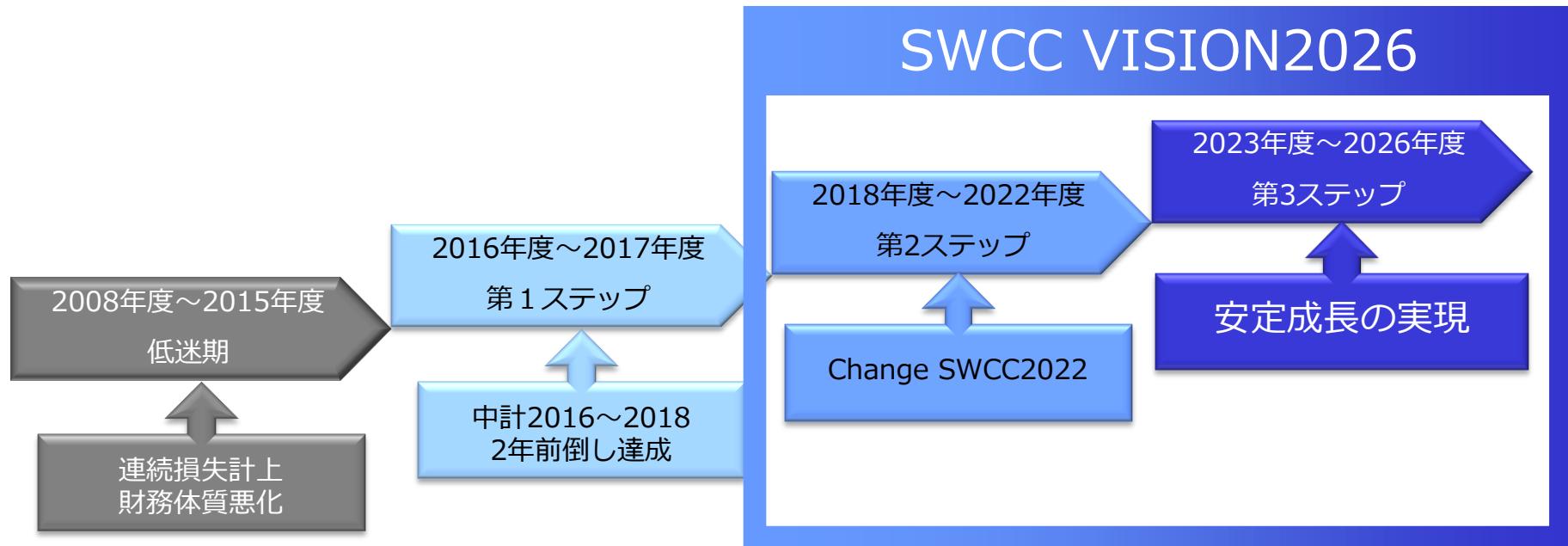
【国内・海外】設備更新、生産性向上、省力化

【 新 規 】成長分野向け設備投資（高機能電線線材・巻線 等）

# ビジョンと中期経営計画

# ビジョン「SWCC VISION2026」

## 中期経営計画 「Change SWCC2022」



第1ステップ (2016年度～2017年度)

中計2016～2018 【構造改革・信頼回復と既存事業の足固め】

第2ステップ (2018年度～2022年度)

Change SWCC2022 【構造改革・成長戦略】

# 2026年度の連結業績目標

単位：億円

	2015年度 実績	2017年度 実績	2022年度 中期経営計画	VISION 2026	VISION2026 目標 (2017年度比)
売上高	1,697	1,681	1,950	1,950	+269 (+16%)
営業利益	9.4	62.7	70.0	90.0	+27.3 (+44%)
経常利益	△14.6	48.9	64.0	86.0	+37.1 (+76%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△91.5	37.3	43.0	55.0	+17.7 (+47%)

# 昭和電線グループ

## SWCC VISION2026

### 【構造改革・成長戦略】

### 【安定成長の実現】

# SWCC VISION2026策定の背景

日本における人口減少と低成長

世界的産業構造の変化（第4次産業革命）

東南アジアの人口ボーナス

中国は高度成長から安定成長へ

# SWCC VISION2026

## SWCC ビジョン (2026年までにありたい姿)

「環境に応じて変化し、  
企業価値を最大化できる企業」

社会的使命の実践と安定成長の両立

# SWCC VISION2026

ミッショントリニティ  
(存在意義：何を目的とするか)

社会に必要とされ、  
生活を支えるソリューションを提供する

バリュー  
(従業員の価値観：ミッションの実現のための姿勢、心掛け)

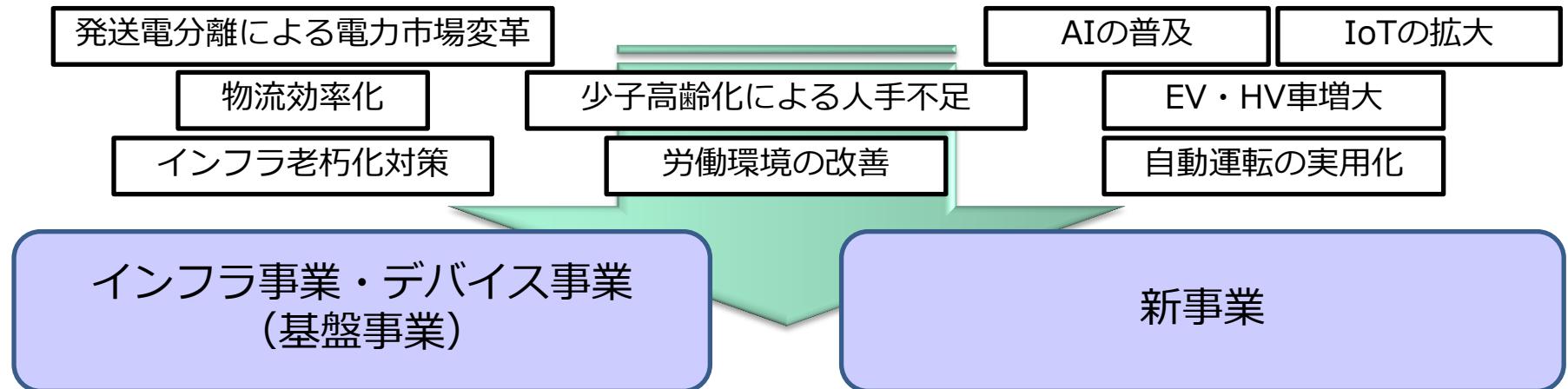
**【迅速】・【情熱】・【考動】**

によって、お客様のニーズを掘り起こす

# 持続的な成長に向けた事業活動

## 世界の動き

1. COP21で地球温暖化対策の国際ルールである「パリ協定」を採択
2. 国連で「持続可能な開発目標（SDGs）」を採択



# 事業活動を通じた 社会的使命の実践に向けて

1. 事業活動を通じて社会的使命を果たし、持続的な社会の発展に貢献する
2. 環境に配慮した製品開発活動を通じ、安心安全な社会を支える
3. 法令を遵守し、すべてのステークホルダーとの良好な関係を築く



## 世の中の動き

気候変動抑制に向けて世界の国際的取り組み（パリ協定）

持続可能な開発目標の設定（国連SDGsへの取り組み）

ESGを企業評価、投資判断に利用

働き方改革のもとでの労働環境の改善

## 当社の事業活動

### [インフラ・デバイス事業]

電力ケーブル、部品、工事  
建設電販用ケーブル  
通信用ケーブル／光ファイバ  
免震部材・システム  
複写機用部品  
家電、産業機器用ハーネス  
ITソリューション

### [新事業]

高機能無酸素銅、車載用ヒーター線  
車載用電線、車載／電子部材用巻線  
医療用特殊電線、複合ケーブル

## 環境・社会への貢献

### [事業活動を通じて]

#### 環境と社会の持続的な発展に貢献]

- ・CO<sub>2</sub>の削減、VOC削減
- ・資源の有効利用
- ・環境配慮型製品開発と製品化の促進
- ・生物多様性の取り組み
- ・安全・衛生活動の推進
- ・社員のワークライフバランスの取り組み推進と働きやすい環境づくり
- ・ステークホルダーとの良好なコミュニケーションの維持向上

## ガバナンス

- ・コンプライアンスの徹底
- ・サイバーセキュリティー対策の強化
- ・事業活動の重要なリスクの管理と低減
- ・情報公開による透明性の向上 等

# 中期経営計画CSR方針

主題		方針
E	環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ環境自主行動計画に基づく目標達成</li> <li>・環境配慮型製品の拡大と製品を通じた社会への貢献</li> <li>・生物多様性の取り組みを広げる</li> </ul>
S	人権・労働慣行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全先取りの取り組みの推進と労働災害の撲滅</li> <li>・業務の自動化、省力化による継続的な生産性向上</li> <li>・様々な観点を取り入れるためのダイバーシティの推進</li> <li>・従業員の心身の健康向上とワークライフバランスの促進</li> <li>・幅広い働き方の提供による働きやすい環境づくり</li> </ul>
	取引先との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CSR調達ガイドラインを通じた取引先とのコミュニケーション</li> </ul>
	顧客との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客満足度の継続的な調査と当社対応へのフィードバックの習慣化</li> <li>・品質向上のための継続的な取り組みと品質コスト目標の達成</li> <li>・グループ各社の品質状況のモニタリング強化</li> </ul>
	ステークホルダーとの関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務情報の適切な開示と非財務情報の開示の充実化</li> </ul>
	地域コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のみなさまとの積極的に関わり、頼られるメーカーとなるための活動の継続・拡大</li> </ul>
G	ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令遵守の徹底とモニタリング機能の強化</li> <li>・コーポレートガバナンス・コードへの継続対応と実効性向上</li> <li>・サイバーセキュリティ体制の構築と運用</li> <li>・情報開示ガイドラインの設定と適切な情報開示</li> <li>・BCM（事業継続マネジメント）によるリスク低減活動と実効性向上</li> </ul>

# 昭和電線グループ

## 中期経営計画2022

## Change SWCC2022

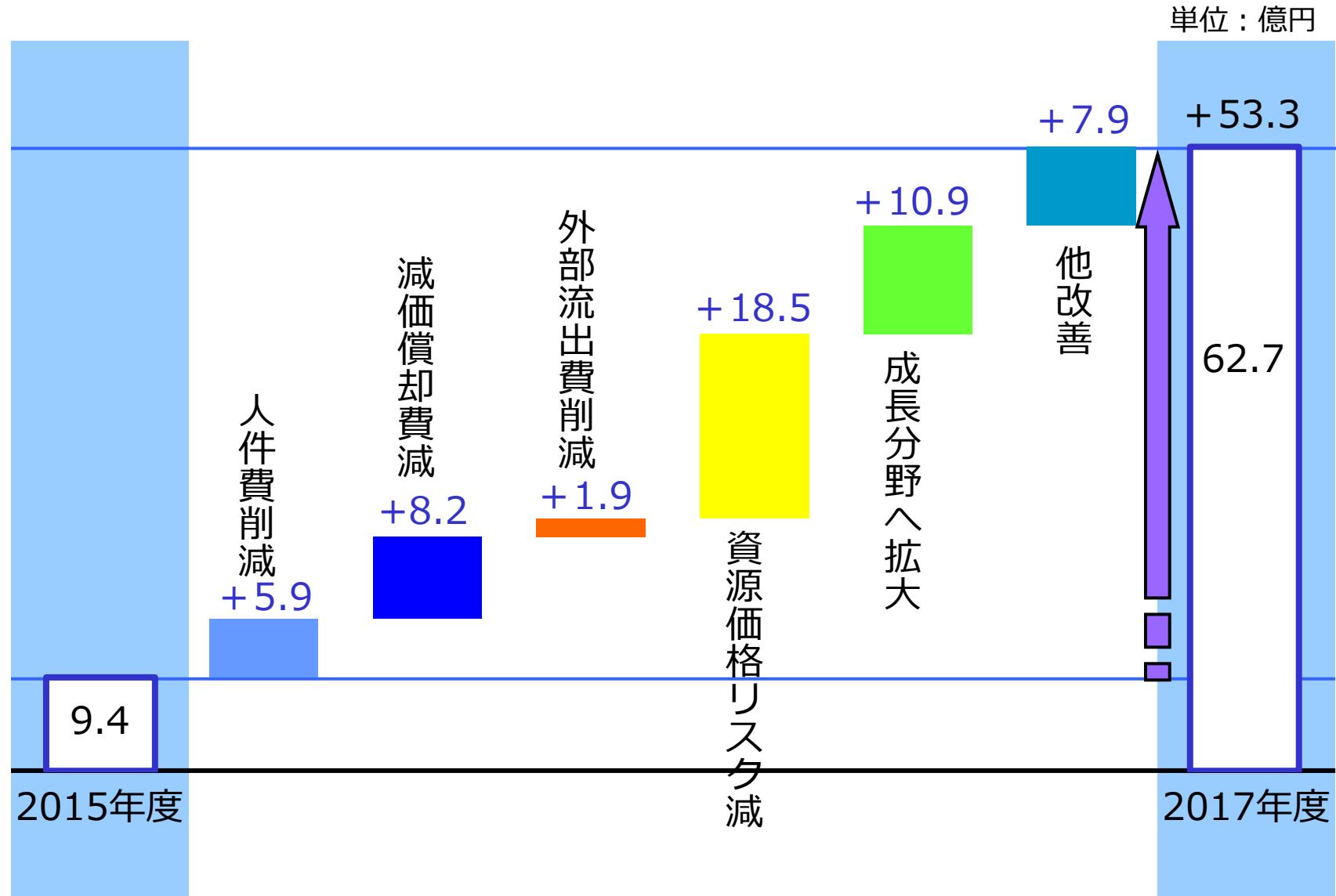
# 中期経営計画2016～2018

## 2016年～2017年の振り返り

【構造改革】

【信頼回復と既存事業の足固め】

# 営業利益の増減（2015年度対比）



# 中期経営計画2018 連結業績

中期経営計画の利益を2年連続達成  
6期ぶりに復配 ⇒ 安定利益創出、安定配当へ

単位：億円

	2015年度	2016年度			2017年度			2018年度
	実績	中計	実績	差異	中計	実績	差異	中計
売上高	1,697	1,660	1,552	△108	1,700	1,681	△19	1,730
営業利益	9.4	25.0	42.3	+ 17.3	30.0	62.7	+ 32.7	35.0
経常利益	△14.6	10.0	24.4	+ 14.4	15.0	48.9	+ 33.9	20.0
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△91.5	6.0	19.7	+ 13.7	9.0	37.3	+ 28.3	12.0
営業利益率	0.6%	1.5%	2.7%	+ 1.2%	1.8%	3.7%	+ 1.9%	2.0%

# 構造改革の取り組み結果

	コメント
事業会社 再編・組織の スリム化	<ul style="list-style-type: none"> <li>①持株会社機能の見直しと組織のスリム化</li> <li>②事業会社の再編 ⇒ 国内連結事業会社3社を統合</li> <li>③電力システム構造改革の継続 ⇒ 国内需要へ注力し、収益性向上</li> <li>④ワイヤハーネスの構造改革 ⇒ 固定費削減と海外生産体制見直し</li> <li>⑤グループ本社機能の移転（東京都港区 ⇒ 川崎市）</li> </ul>
資産の 有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>①遊休施設、土地の活用（電力システム）</li> <li>②グループ内拠点集約（流通倉庫、営業事務所）</li> <li>③資産売却（投資有価証券）</li> </ul>
不採算事業の 再生に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>①全事業セグメントにおいて黒字化達成</li> <li>②海外巻線現地法人は、合弁パートナーと構造改革を継続</li> </ul>
海外事業の 再生に向けて	

# 構造改革の継続事項

1. グループ体制最適化
2. 中長期的な需要動向に基づく生産拠点再編
3. 低収益、不採算事業の改革
4. 海外事業の早期立て直し

# 成長分野への取り組み強化

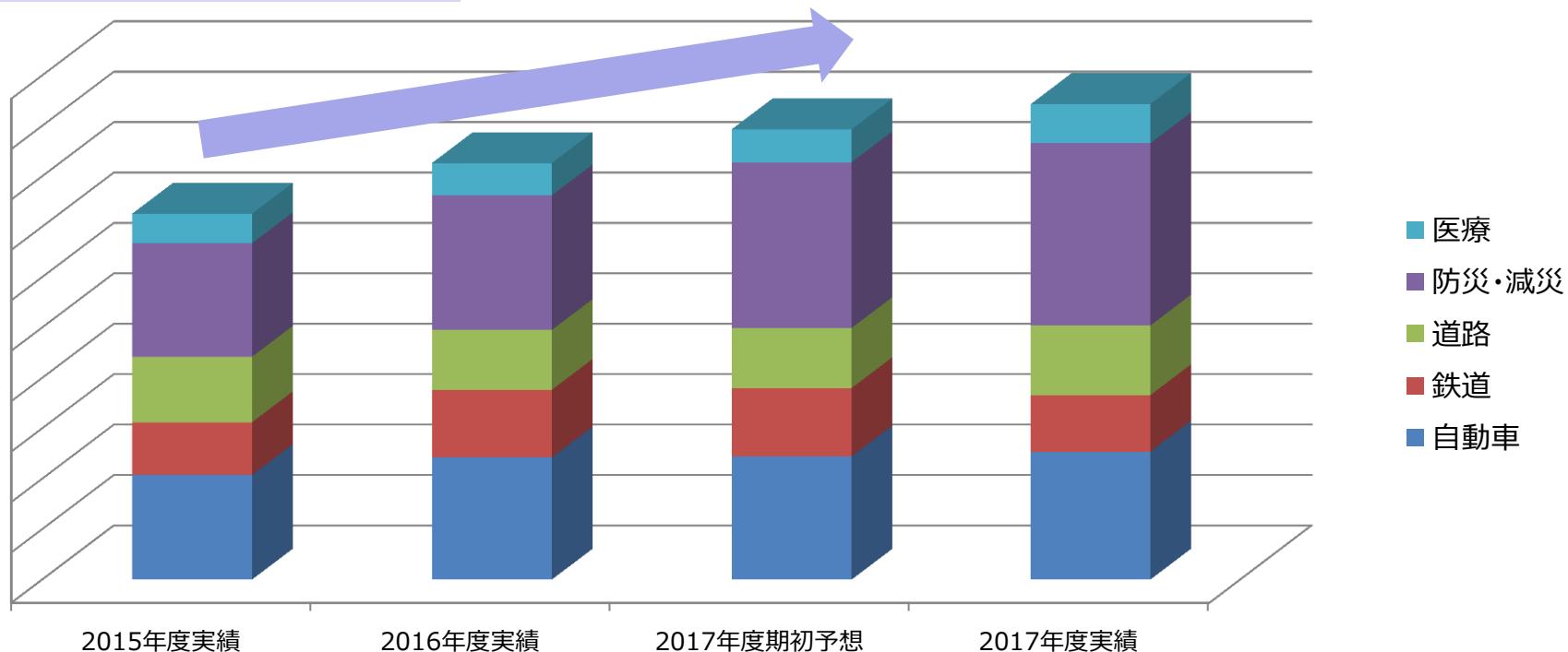
成長分野へ拡大による効果額

事業ポートフォリオの  
見直しによる収益力強化

2015年度対比  
2016年度実績 + 5.0億円

2016年度対比  
2017年度期初予想 + 3.4億円

2016年度対比  
2017年度実績 + 5.9億円



# 昭和電線グループ

## 中期経営計画2022

### 【Change SWCC2022】

#### 基本方針

# 中期経営計画2022基本方針

1. 事業収益力強化

2. 新事業の創出

3. 海外事業の新展開



スクラップ＆ビルド

構造改革と成長戦略

# 中期経営計画2022 施策

	項目
事業収益力 強化	<p>1. グループ経営資源の結集【構造改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①営業体制効率化</li> <li>②生産拠点・物流拠点の統合、再編</li> <li>③グループ会社統合、再編、スリム化</li> </ul> <p>2. 他社との提携</p> <p>業務提携、生産委託、受託等による設備の有効活用</p> <p>3. 業務の労働生産性向上</p> <p>ITを活用した業務改善</p> <p>【業務プロセス改善 ⇒ 働き方改革】</p>  <p>【収益性低下事業の縮小・撤退】</p>

# 中期経営計画2022 施策

新事業の創出

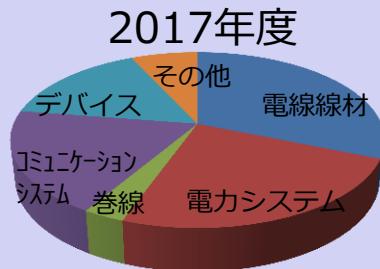
## 項目

新事業創出をするためにグループ経営資源を結集  
今後、更に注力するマーケット

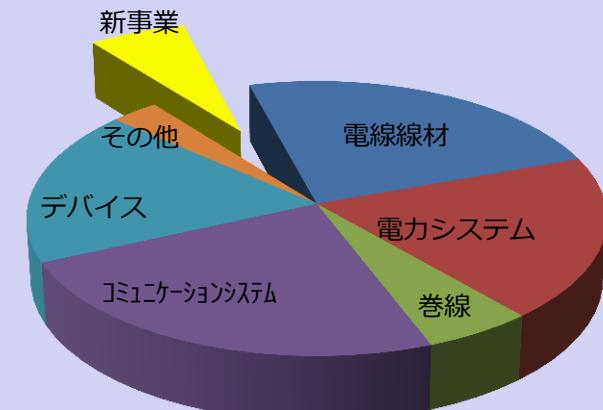
- ①EV・車載関連、②FA関連、③医療関連

イノベーション推進センターが新事業を創出

既存事業での安定収益  
にプラスして  
高収益新事業を創出



2022年度新事業粗利益11億円



オープンイノベーション、リバースイノベーション、パートナーシップ

# 昭和電線グループコア技術

材料

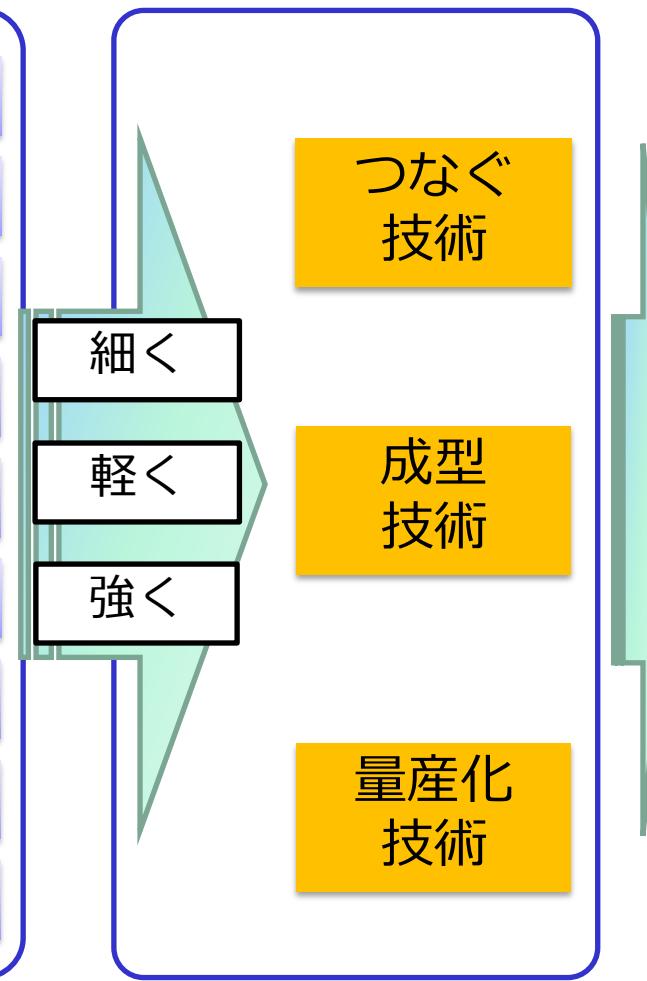


銅

基礎技術

- 合金配合技術
- 合金製造技術
- 無酸素銅技術
- 伸線加工技術
- 異型加工技術
- 絶縁被覆技術
- 編組技術
- 撚り線加工技術
- 複合化技術

注力する技術



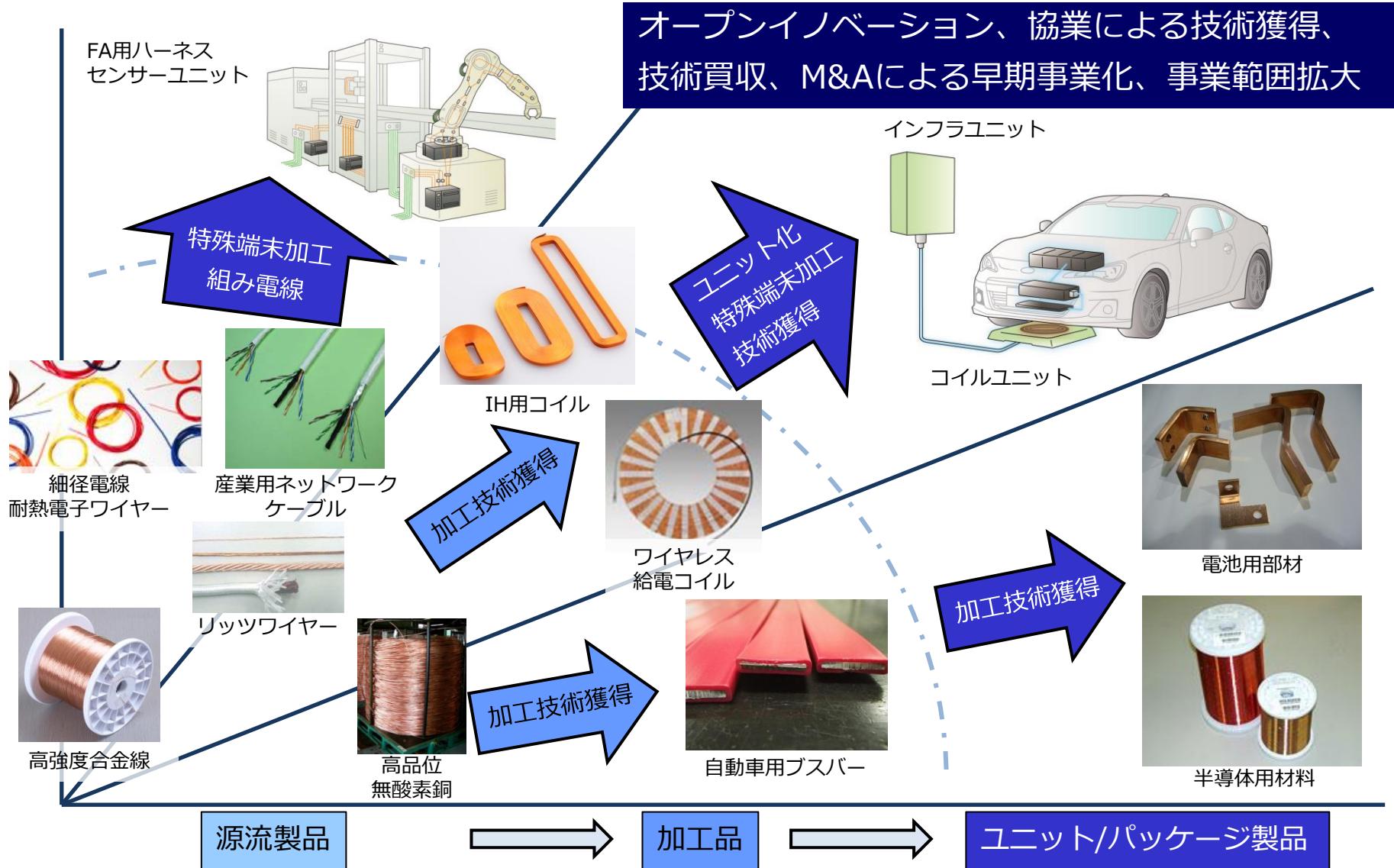
時代の流れに  
則した技術の  
融合

- 自動車のEV/HV化
- 軽量化
- 利便性向上
- 生産革新IoT化



アルミ

# コア技術を生かし新事業へ



# 中期経営計画2022 施策

海外事業の  
新展開

## 項目

### ①中国合弁事業の成長戦略

- 富通集團有限公司とのパートナーシップ
- 中国におけるEV関連需要の取り込み

### ②デバイス事業の成長戦略

- 【産業機器関連、車載向けへの拡大】

2018年3月 ワイヤハーネス事業 ベトナムで新会社設立

### ③海外パートナーとの協業



海外事業会社営業利益

2017年度 4.4億円⇒2022年度6.5億円

海外持分法適用会社利益

2017年度△4.2億円⇒2022年度4.0億円

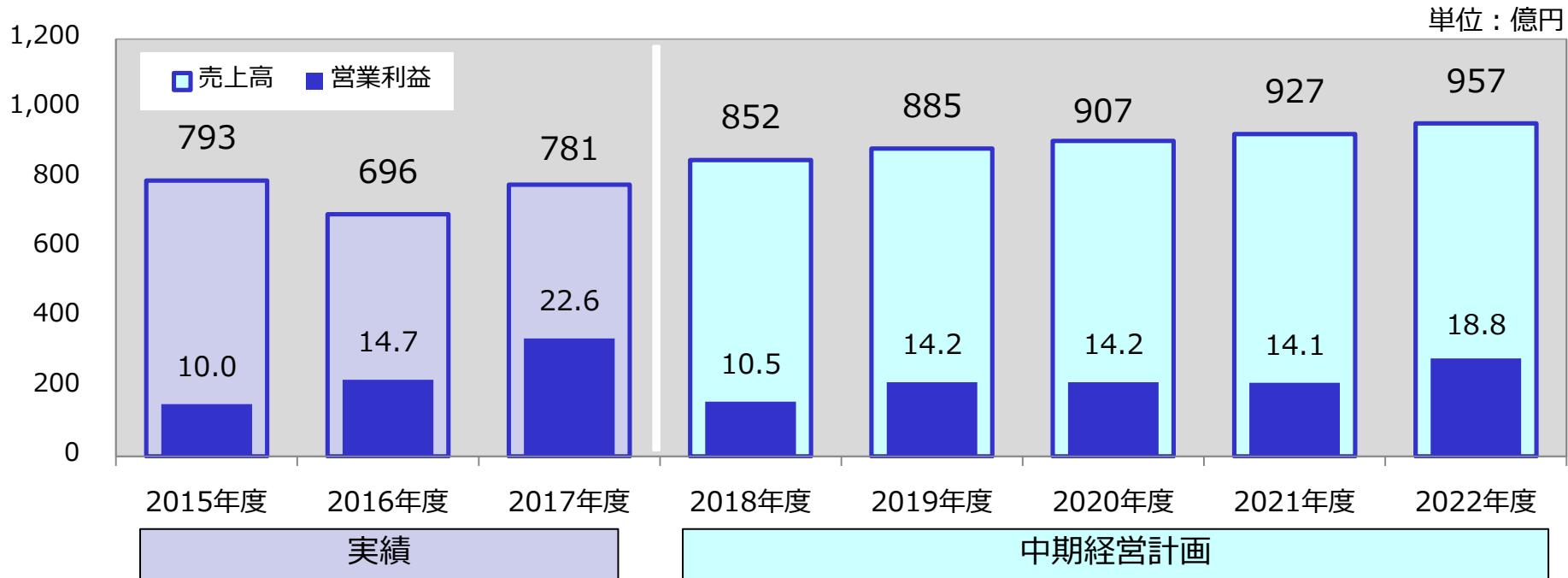
# 昭和電線グループ

## 中期経営計画2022

### 【Change SWCC2022】

## セグメント別計画

# 電線線材事業



## 【施策】

### 1. 事業収益力強化

- ①中長期的需要構造の変化に対応
- ②製造、販売、物流体制の再構築
- ③材料価格変動リスクへの対応

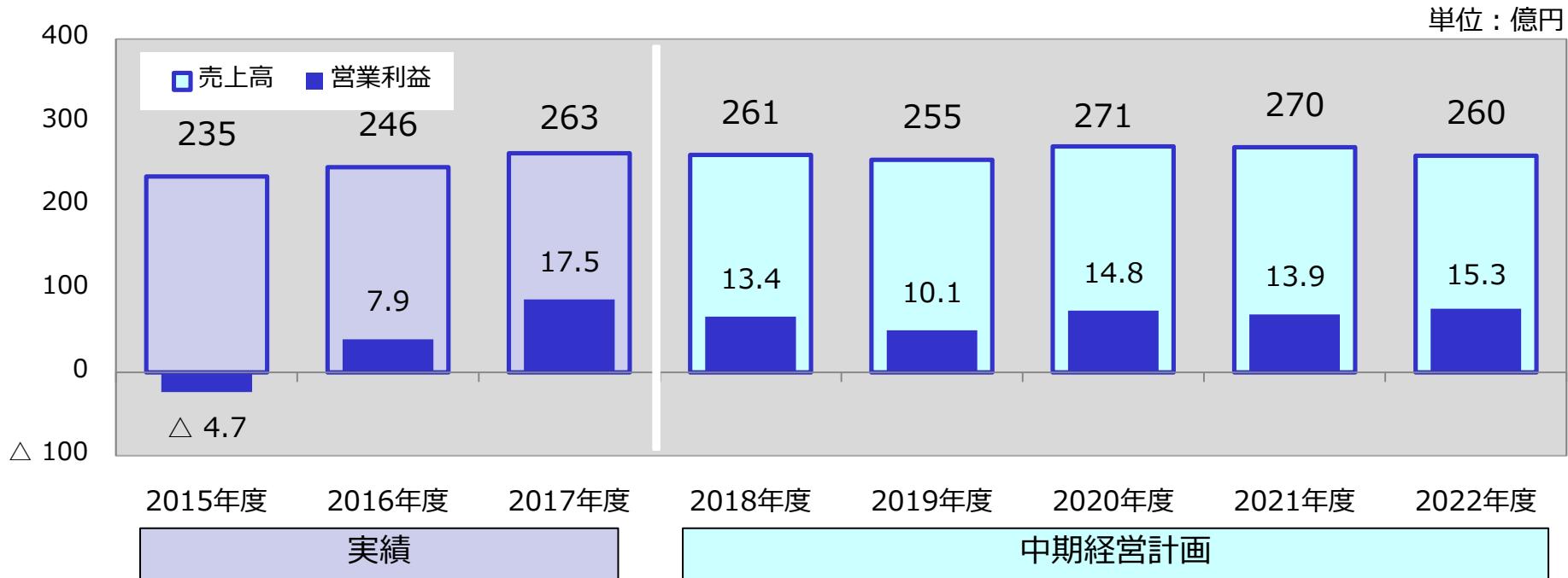
### 2. 新事業の創出

- ①高機能線材の拡大（EV・車載、FA、医療）
- ②リサイクル事業の強化

### 3. 海外事業の新展開

- ①中国におけるEV関連需要の取り込み（富通集団有限公司との協業）

# 電力システム事業

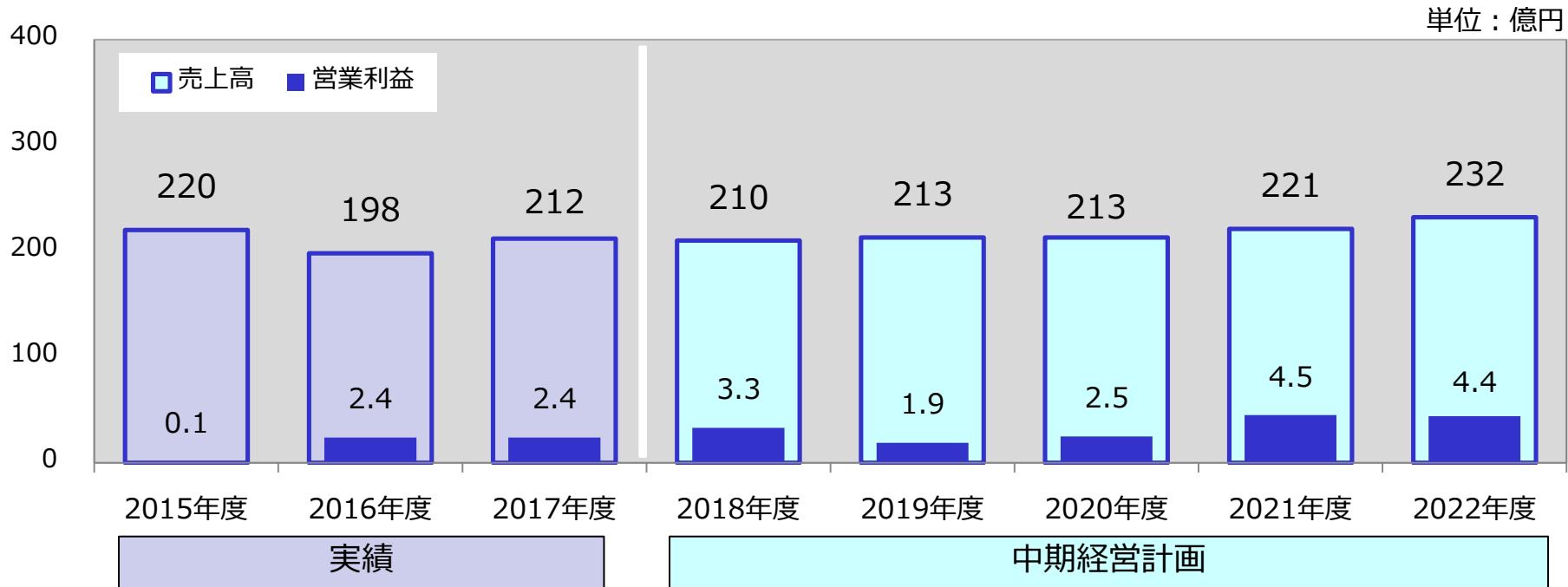


## 【施策】

### 事業収益力強化

- ①発送電分離等需要構造の変化に対応（分散電源化、コンパクトシティ）
- ②電力インフラ老朽化設備更新需要への対応
- ③エンジニアリング体制の維持・強化
- ④SICONEX®製品の拡大（工期短縮）

# 巻線事業



## 【施策】

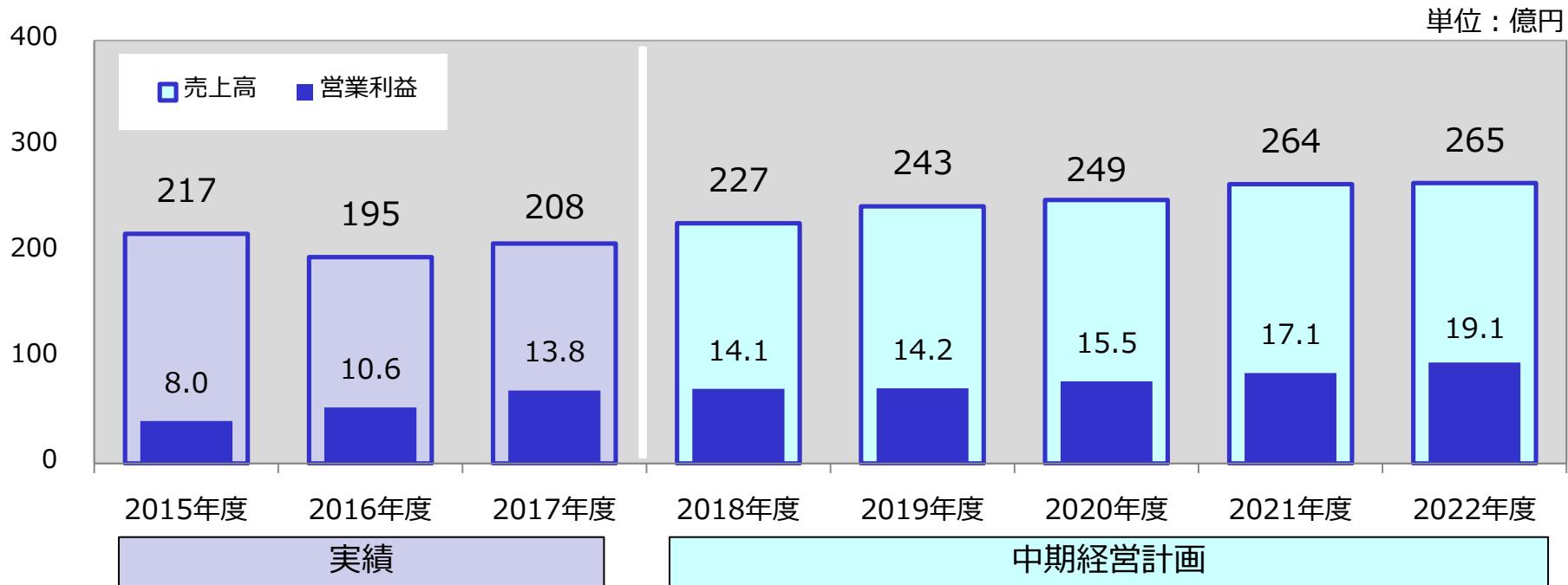
### 1. 事業収益力強化

- ①既存製品の製造体制見直し
- ②グループ内巻線事業会社の連携強化

### 2. 新事業の創出

- ①車載、産業機器向け高付加価値製品の拡大

# コミュニケーションシステム事業



## 【施策】

### 1. 事業収益力強化

- ①国内通信トラフィック増大に伴う需要の変化に対応
- ②海外光ファイバ需要への対応
- ③グループ内製造体制の連携強化

### 2. 新事業の創出

- ①FA、医療機器向け高機能製品の拡大
- ②ネットワークソリューション事業の拡大

# デバイス事業



## 【施策】

### 1. 事業収益力強化

- ①生産性向上、省力化、自動化の推進
- ②グループ内の連携強化

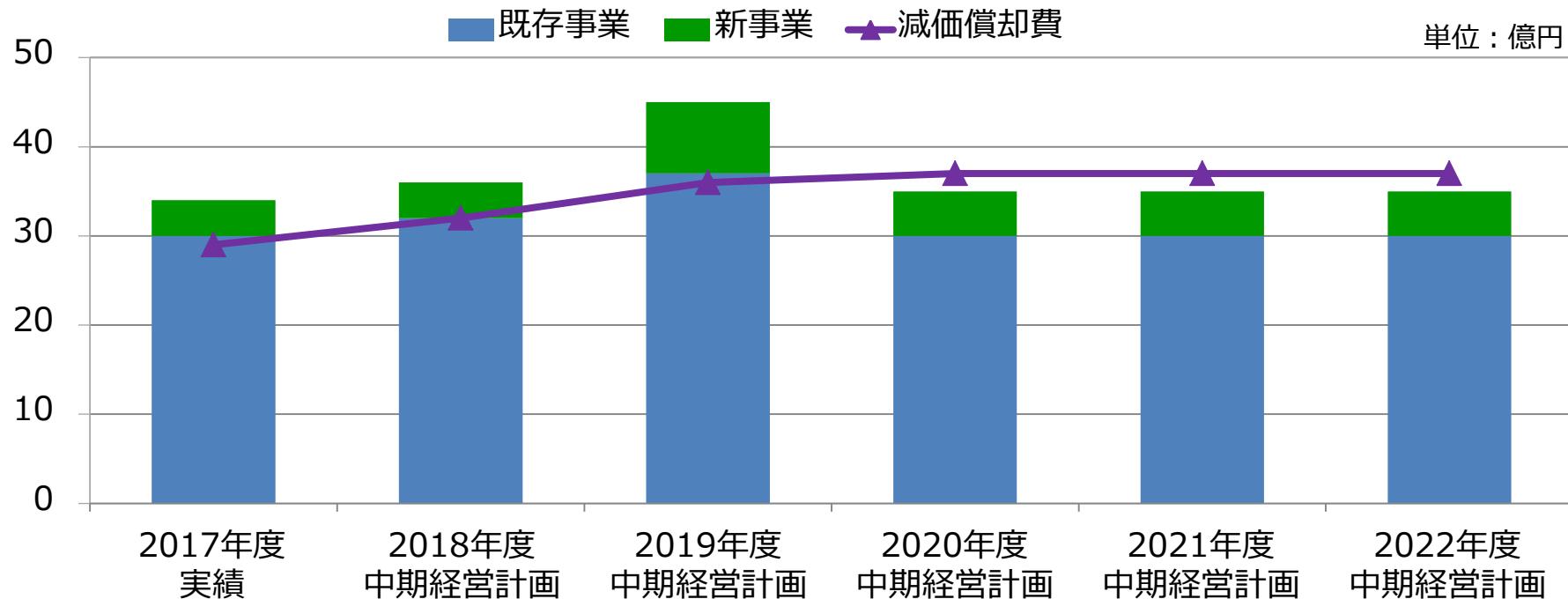
### 2. 新事業の創出

- ①FA、産業機器向けワイヤハーネスの拡大
- ②精密デバイスの次世代製品開発

### 3. 海外事業の新展開

⇒2018年3月にベトナムにおいてワイヤハーネス事業の新会社設立（※別紙リリース参照）

# 投資計画と研究開発費



《中期経営計画期間の主な投資計画、研究開発計画》

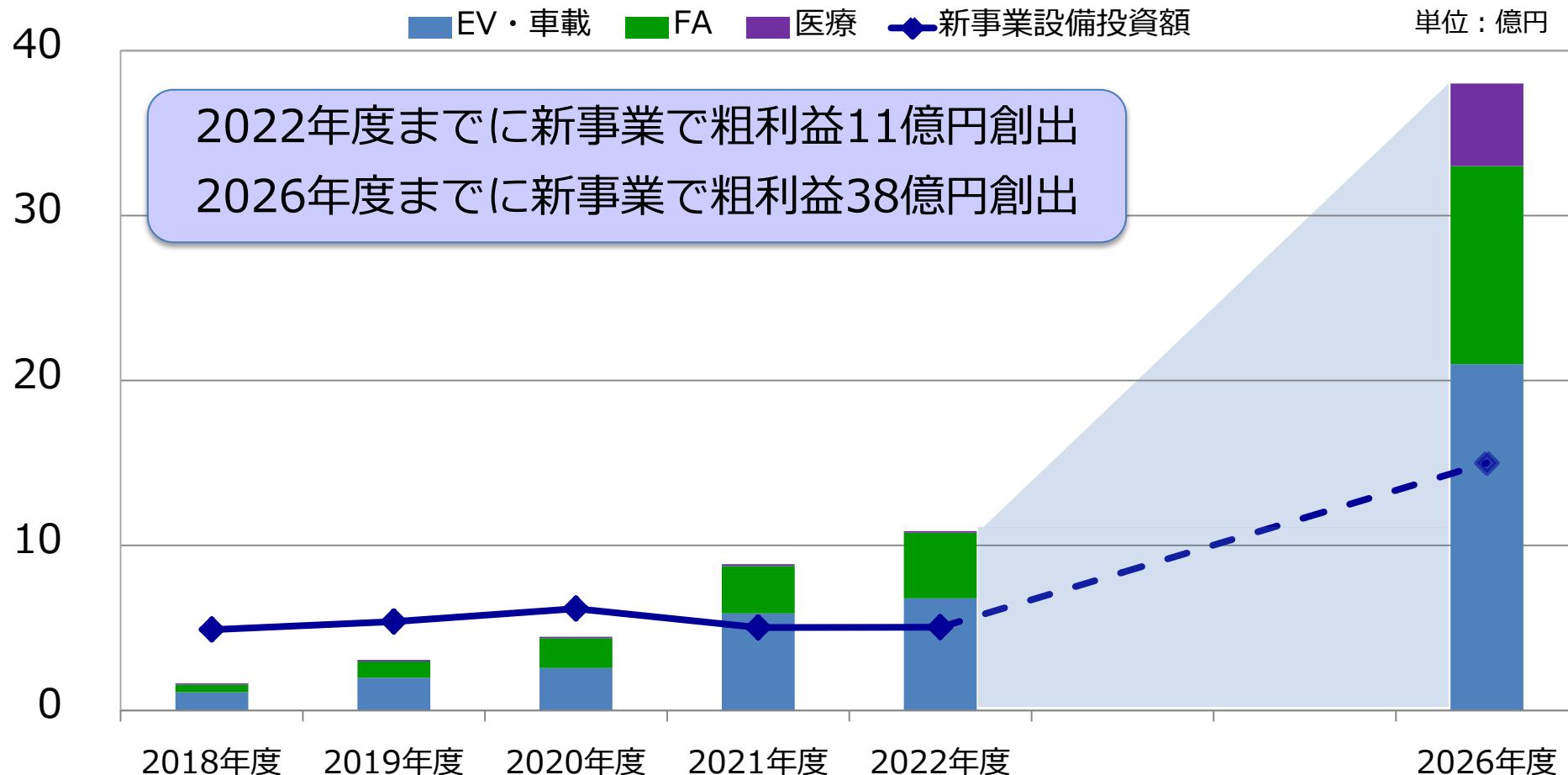
【既存事業】設備更新、生産性向上、省力化、環境対応、BCP対応 等

【新事業】EV・車載、FA、医療 等

【研究開発費】新事業向け製品開発、環境配慮型製品開発、省力化 等

中期経営計画期間の研究開発費 12～15億円/年

# 新事業利益目標と設備投資額



# セグメント別 営業利益推移

単位：億円

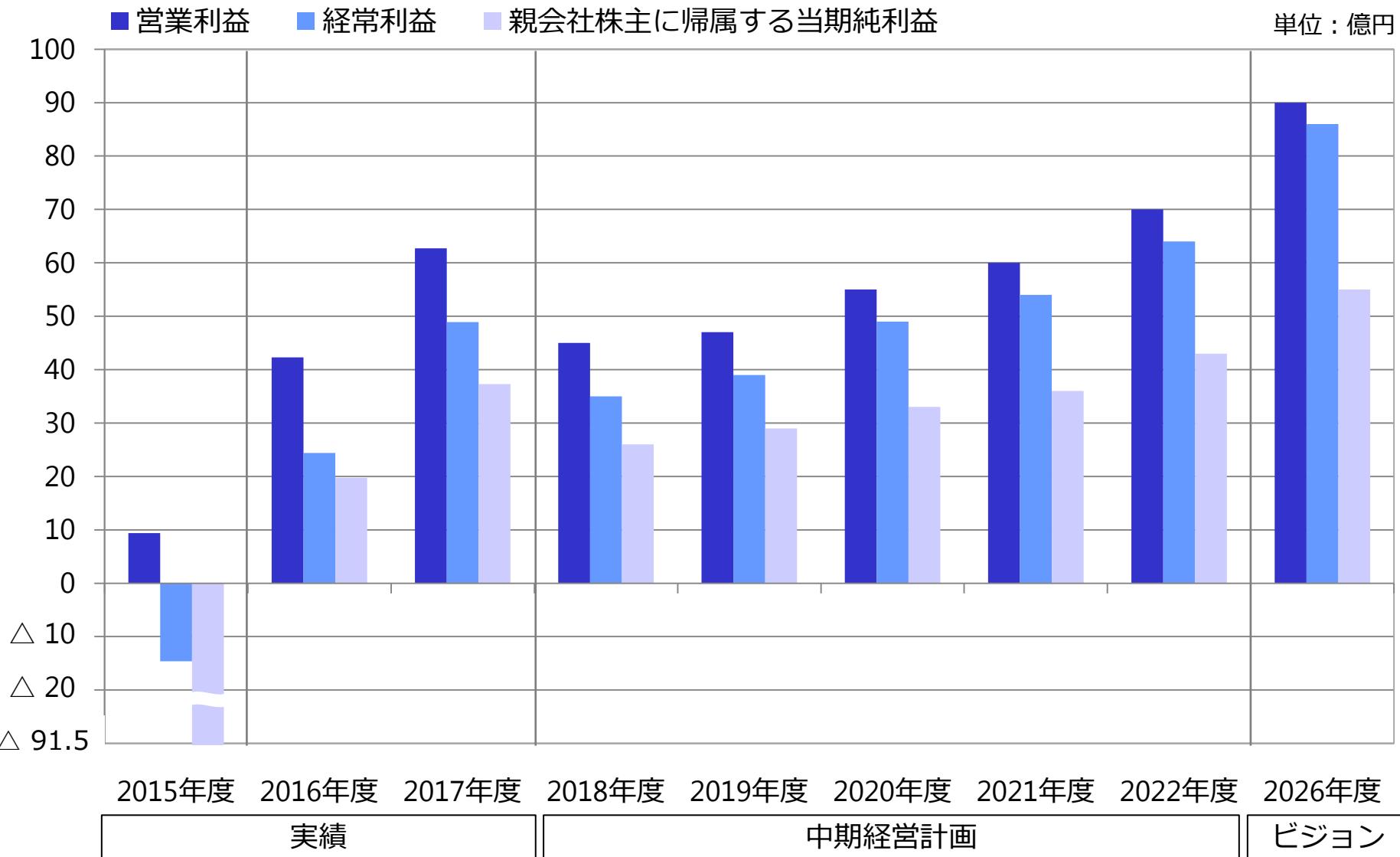
	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 中計	2019年度 中計	2020年度 中計	2021年度 中計	2022年度 中計
電線線材	10.0	14.7	22.6	10.5	14.2	14.2	14.1	18.8
電力システム	△4.7	7.9	17.5	13.4	10.1	14.8	13.9	15.3
巻線	0.1	2.4	2.4	3.3	1.9	2.5	4.5	4.4
コミュニケーション システム	8.0	10.6	13.8	14.1	14.2	15.5	17.1	19.1
デバイス	△0.7	9.9	11.3	8.8	10.0	11.3	12.7	14.6
その他	△3.3	△3.2	△4.9	△5.1	△3.4	△3.3	△2.3	△2.2
合計	9.4	42.3	62.7	45.0	47.0	55.0	60.0	70.0

# 連結損益計算書

単位：億円

	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 中計	2019年度 中計	2020年度 中計	2021年度 中計	2022年度 中計
売上高	1,697	1,552	1,681	1,750	1,800	1,850	1,900	1,950
営業利益	9.4	42.3	62.7	45.0	47.0	55.0	60.0	70.0
経常利益	△14.6	24.4	48.9	35.0	39.0	49.0	54.0	64.0
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△91.5	19.7	37.3	26.0	29.0	33.0	36.0	43.0
営業利益率	0.6%	2.7%	3.7%	2.6%	2.6%	3.0%	3.2%	3.6%

# 連結損益推移



# 昭和電線グループ

## SWCC VISION2026

### 係数目標

# 2026年度の係数目標

単位：億円

	2015年度 実績	2017年度 実績	2022年度 中期経営計画	VISION 2026
売上高	1,697	1,681	1,950	1,950
営業利益	9.4	62.7	70.0	90.0
経常利益	△14.6	48.9	64.0	86.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	△91.5	37.3	43.0	55.0
営業利益率	0.6%	3.7%	3.6%	4.6%
配当性向	—	4.0%	約20%	約30%
有利子負債	575	490	400以下	300以下
DEレシオ※	227%	149%	90%以下	50%以下
純資産	257	334	470以上	600以上
自己資本比率	20.6%	26.5%	35%以上	40%以上

※DEレシオは自己資本で算出

Copyright © 2018 昭和電線ホールディングス株式会社



## ■お問合せ先

昭和電線ホールディングス株式会社  
経営企画部 法務・IR広報グループ

TEL : 044-223-0520

E-mail : kouho@hd.swcc.co.jp